

ブドウ‘シャインマスカット’の経済性と導入経過モデル

総務企画部 企画調整スタッフ 山本善久

近年、単価低迷や重油高騰により本県の主力品種であるデラウェアの収益性が低下するなかで、新品種‘シャインマスカット’への期待が高まっています。しかしながら、導入して間もないこともあり、これまで経営実態については十分な把握がなされていませんでした。

そこで、植栽年数が異なり(2～4年生)、10a程度のまとまった園地における栽培事例調査をもとに(表1)、シャインマスカットの経済性を明らかにし、導入経過モデルを作成しました。

○結果の概要

1) シャインマスカットの経済性

表2に、シャインマスカットの経済性について示しました(労働時間については、

表1 調査農家の概要

	調査農家A	調査農家B
面積	9a (ハウス1棟)	16.8a (ハウス2棟)
作型	無加温 (サイドレス)	無加温
樹齢 植栽本数	2年生(14本)	3年生:8.3a(19本) 4年生:8.5a(9本)
仕立て方	H型短梢	自然形
樹冠占有率	33%	75%~80%
労働力	1人	2人+雇用
販路	J A : 8% 個販 : 92%	J A : 65% 個販 : 35%

資料：聞き取り調査より作成した。

図1を参照のこと)。

2年生園である調査農家Aは、調査年次の2009年が初収穫であったことから、収量が137kg、単価が1,232円/kg、粗収益は169千円でした。10a当たり房数は308房であり、房重及び房当たり単価を推定



シャインマスカット

すれば、それぞれ446g、549円となりました。また、既存ハウスを利用した栽培のため償却費が少ないことから経営費は134千円となり、その結果、所得が35千円、所得率が20%となりました。労働時間は、総労働時間が134.8時間(雇用導入がないため家族労働時間も同様)であり、家族労働1日(8時間)当たり所得は2,052円となりました。

3～4年生園の調査農家Bでは、収量が1,107kg、単価が1,515円/kg、粗収益は1,677千円でした。10a当たり房数は1,929房であり、房重及び房当たり単価を推定すれば、それぞれ574g、869円となりました。また、こちらも既存ハウスを利用した栽培のため償却費が少ないことから経営費は470千円となり、その結果、所得は1,207千円、所

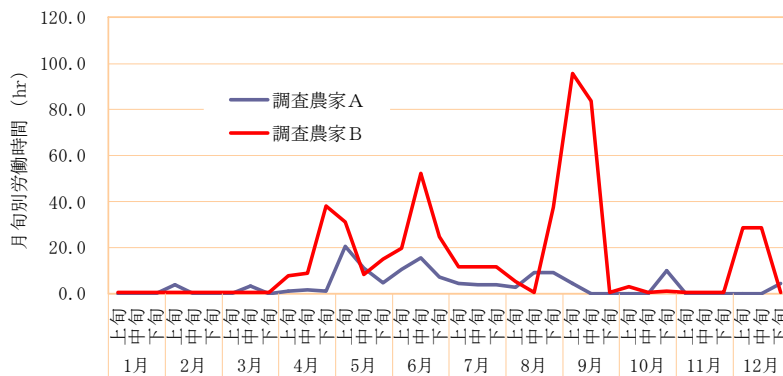


図1 農家別にみた月旬別労働時間 (10a 当たり)

資料：聞き取り調査より作成した。

表2 シャインマスカットの10a当たり経済性と導入モデル（既存ハウスの利用を前提）

	実績値			作成モデル	備考
	1年目	2年目	3年～4年目	5年目以降	
		調査農家A	調査農家B		
目標房数(10a)		—	1,000房 2,000房	3,000房	農家聞き取りより設定
房数		308	1,929		〃 推定
1房重(g)		446	574	600	〃 推定
粗 販売額	育	169,004	1,676,796	2,727,000	
収 単収(kg)		137	1,107	1,800	
益 単価(円/kg)	成	1,232	1,515	1,515	調査農家Bをもとに算出
固定費	期	130,578	256,398	256,398	調査農家Bをもとに算出
変動費		3,847	213,314	346,956	
販売経費	間	1,781	110,387	179,545	調査農家Bをもとに算出
包装荷造費		2,066	55,308	89,959	〃
雇用労働費		0	47,619	77,453	〃
計		134,425	469,712	603,354	
所得		34,579	1,207,084	2,123,646	
所得率		20%	72%	78%	
家族労働1日当たり所得		2,052	19,775	25,372	
総労働時間		135	536	747	調査農家Bをもとに算出
うち家族労働時間		135	488	670	〃

資料：聞き取り調査をもとに作成した。

注1. 目標房数は、農家への聞き取りから設定した。

2. 5年目以降の経営モデルは、調査農家Bを基準に設定した。

3. 肥料、農薬、光熱、償却・修繕、その他費用については固定費と設定し、調査農家B値をそのまま用いた。

4. 変動費については、調査農家Bをもとにkg当たり係数を算出し求めた。

5. 労働時間は、調査農家Bをもとに収量に応じて変化させた。

得率は72%と高い値となりました。労働時間は、総労働時間が536時間（うち雇用労働部分47.7時間）であり、家族労働1日当たり所得は19,775円となりました。

2) 導入経過モデル

これらの結果をもとに、5年目以降（単収が最大化した時点）の経営モデル（表2の作成モデル）を設定すれば、次のように示すことができます。目標房数は、聞き取り結果から3,000房、1房重は調査結果を考慮してほぼ同程度の600gとすると、10a当たり収量は1,800kgとなります。これに調査農家Bの単価実績値を乗じれば、粗収益は2,727千円となり、粗収益から経営費（調査農家Bをもとに算出）を差し引くと、所得が2,124千円、所得率は78%となります。また、労働時間は670時間（調査農家

Bをもとに算出)、家族労働1日当たり所得は25,372円となりました。

〇おわりに

経営調査の結果からは、シャインマスカットの高い経済性が示され、既存農家の導入のみならず、雇用労働を前提とした企業経営（例えば、企業のシャインマスカット栽培への参入）においても導入可能な品種であることが明らかとなりました。しかしながら、本県主力品種デラウェアとの複合経営を想定した場合、デラウェアの収穫期とシャインマスカットの管理作業において労働競合が発生すると予想されることから、雇用確保や最適な作型の組合せの検討が必要となります。今後は、シャインマスカットを中心とした、より経済性の高い複合経営モデルについて研究を進めます。